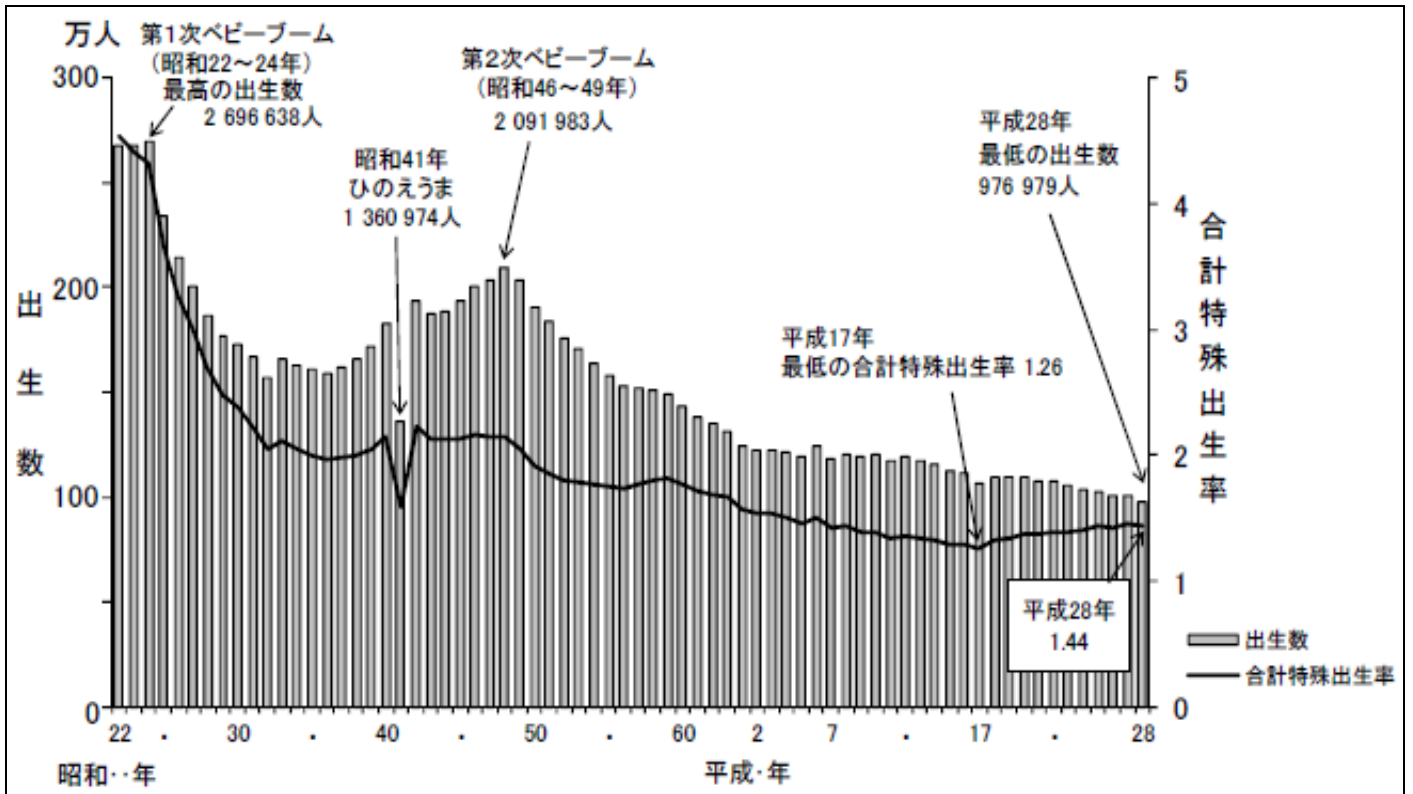


厚生労働省の人口動態統計によると、日本の年間出生数が初めて100万人を割りました。日本の人口減少がすでに始まっているのは周知のとおりですが、より深刻な構造的問題が起こりつつあり、今回はこの状況についてご紹介いたします。

日本の人口減少の動態

厚生労働省が6月に発表した人口動態統計によりますと、2016年に生まれた子どもの数は、97万6979人で、1899年に統計を取り始めてから初めて100万人を下回りました。また1人の女性が生涯に産む子どもの数も、1.44と、前年比0.01ポイント減少しており、出産適齢期の女性の減少が少子化に拍車をかけています。

＜出生数および合計特殊出生率の年次推移＞



＜2016年の状況＞

(1) 出生数の減少

出生数は97万6979人で、前年の100万5677人より2万8698人減少し、出生率（人口千対）は7.8で前年の8.0より低下しています。出生数は戦後のベビーブームの半分以下になりました。

出生数を母の年齢（5歳階級）別にみると、40歳以上の階級では前年より増加していますが、39歳以下の各階級では前年より減少しています。

(2) 婚姻件数の減少

婚姻件数は62万523組で、前年の63万5156組より1万4633組減少し、婚姻率（人口千対）は5.0で前年の5.1より低下しています。平均初婚年齢は夫31.1歳、妻29.4歳で、夫妻ともに前年と同年齢となっていますが、晩婚です。結果として、上記のとおり出産年齢も高く、子どもの数も減ります。

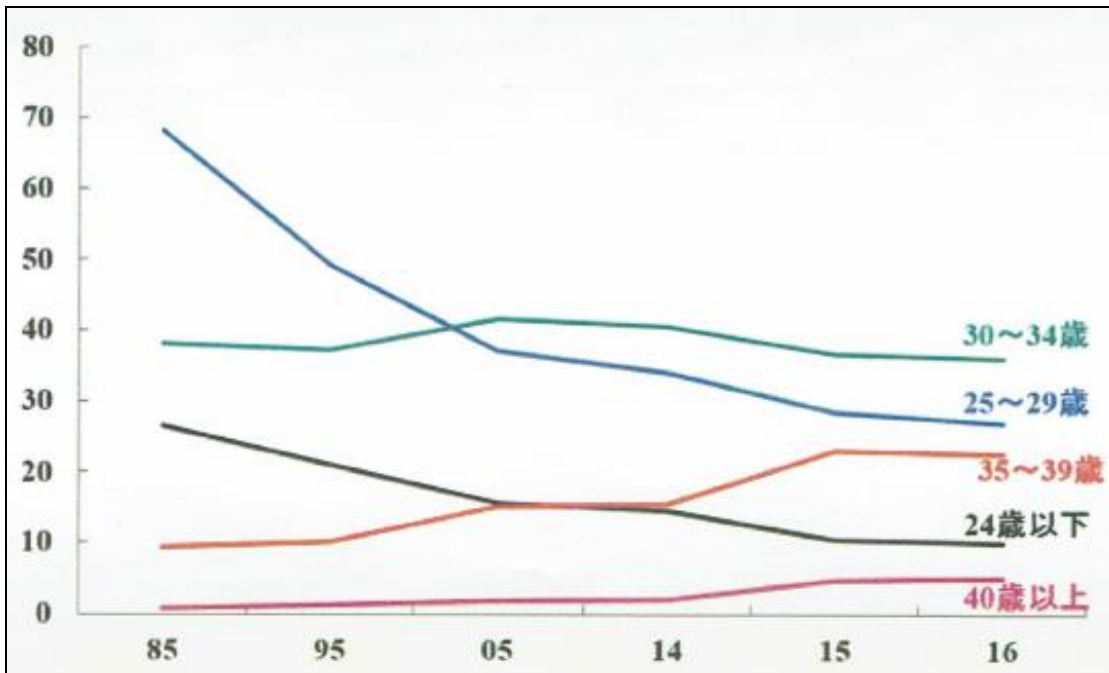
(3) 死亡数の増加

死亡数は130万7765人で、前年の129万444人より1万7321人増加し、死亡率（人口千対）は10.5で前年の10.3より上昇しています。出生数と死亡数の差である自然増減数は△33万786人で、前年の△28万4767人より4万6019人分大きく減少し、自然増減率（人口千対）は△2.6で前年の△2.3より低下し、数・率ともに10年連続で減少かつ低下しています。

ちなみに、自然増減数が増加した都道府県は、沖縄県（4910人）のみだったそうです。

<母の年齢別出生数の推移>

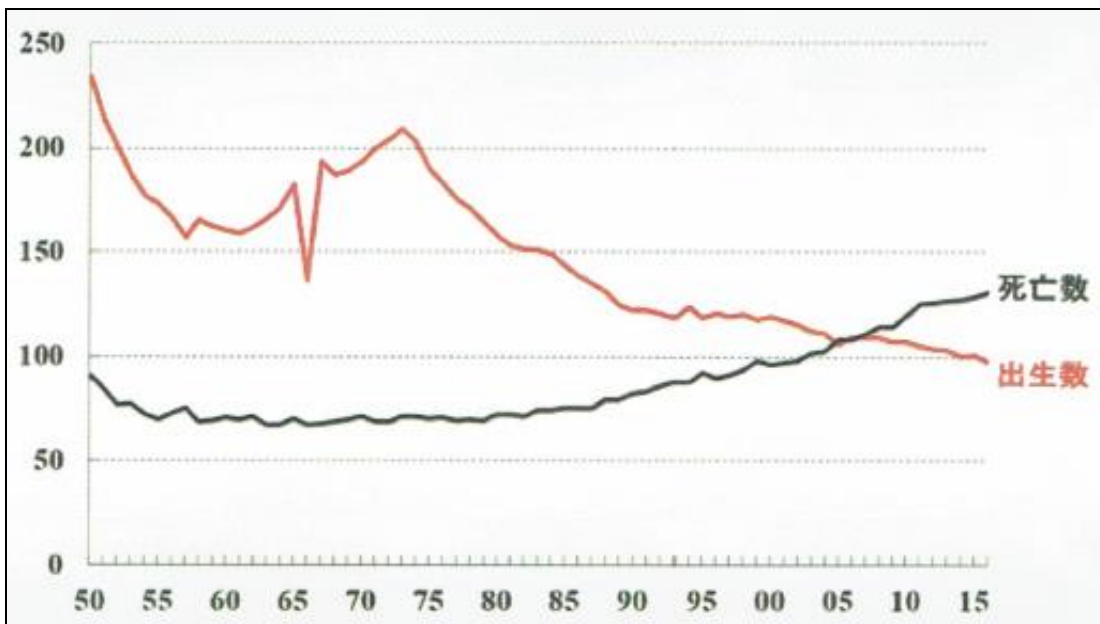
単位：万人、年



厚生労働省「平成28年人口動態統計月報年計の概況」より

<日本の出生数と死亡数の推移>

単位：万人、年



厚生労働省「平成28年人口動態統計月報年計の概況」より

<個別相談の実施>

次世代法に関する「行動計画の策定・届出」「認定・認証の取得」などについて、ご要望をいただければ、次世代育成支援対策推進員（特定社会保険労務士）がお伺いして個別相談にお応えいたします。お気軽にご連絡ください。

神奈川県経営者協会 TEL 045-671-7060